

散歩ガイドマップ

玉川上水駅から一橋学園駅

野火止用水跡と一宮神社

野火止用水路跡は現在小平監視所から2kmの区間は東村山浄水場への送水管が埋設され、その上部はグリーンロードになっている。

ゴミ焼却場の西側に小さな「一宮神社」が祀られている。野火止用水路開削工事終了後も途中で水が吸い込まれいっこうに流れなかった、小川村の開拓者の一人宮崎主馬がここに祠を造り通水祈願を行った、その夜大雨が降り見事一夜にして野火止まで通水したとのいわれが残されている。

新堀用水と胎内掘り

小平監視所から下流の桜橋まで玉川上水に平行して緑道の北側を新堀用水が流れている。

この用水はそれまで直接玉川上水から分水していた左岸7箇所を統合するため、1870年に行われた分水口改正により開削された。(一部は既存の旧小川分水路等が利用された)

最初の約900mの区間(他2ヶ所)はトンネルである。先ずとところどころに堅穴を掘りそこから両側に横穴を掘り進み全体をつなげたとされ、胎内掘りといわれている。厚いローム層は掘り易く、幅の狭い用水路を深く掘るにはトンネルのほうが安上がりだったとも言われる。現在4ヶ所の堅穴が鉄柵で囲まれて残され、他はマンホールに変わ

水車回し堀跡と久保河岸跡

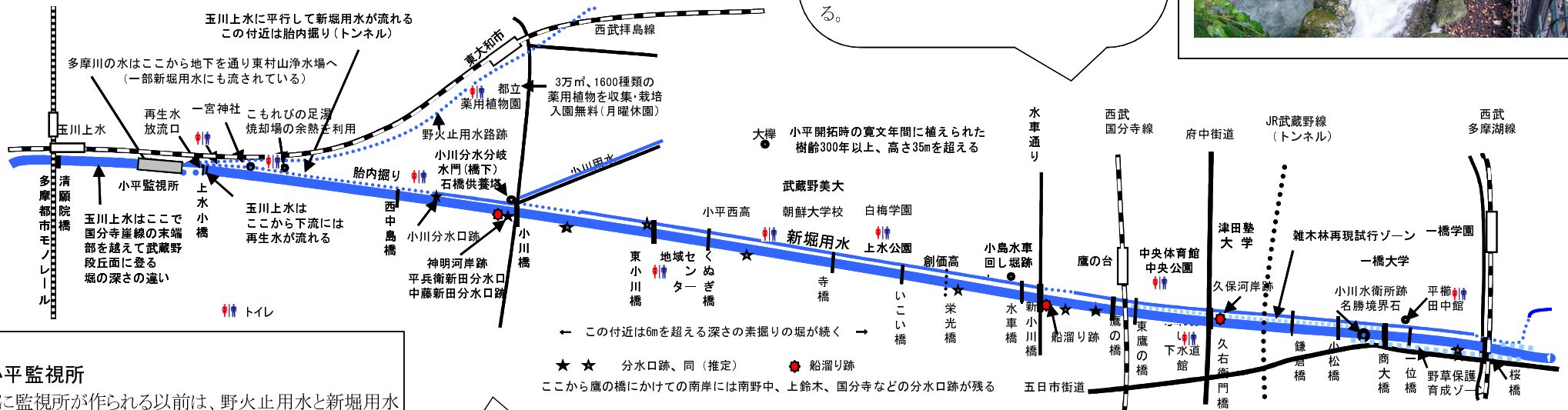
回し堀りは平坦な地形で大きな水車を回す為に工夫された。新堀用水から緩やかに引かれた築樋の水路から半地下に置かれた水車に水を仕掛けた。ここにあった小島水車は水輪の直径が約7.2m、挽臼6台、搗杵20本と大きな規模だった。1950年頃まで稼動していた。

久右衛門橋際の久保河岸跡は玉川上水を明治期の始めに通船が通った時の船溜り跡。通船停止後埋め戻されたが長年の風化により法面がだれて後退し、土塁留めの松杭の杭列が何本か確認できる。当時は近くに荷物を入れる納屋も造られたとされる。

武蔵野線トンネルと地下水

JR武蔵野線が地下で玉川上水を横切る。トンネルへの作業口玉川上水立坑が無料な姿で緑道に建つ。建物の裏側からトンネルに溜まった地下水を時々汲み上げ新堀用水に放流している。

なお、鷹の台からこの付近の玉川上水路は水が浸み込みやすいため清流復活に当たり、防水シート



小平監視所

ここに監視所が作られる以前は、野火止用水と新堀用水の分水口が左岸(北側)にあった。

1963年6月に完成して、7月から東村山浄水場への送水を開始した。玉川上水を流れてきた多摩川の水はここで流木や落ち葉を除き土砂を沈め、地下に埋設された送水管を通り東村山浄水場へと送られる。

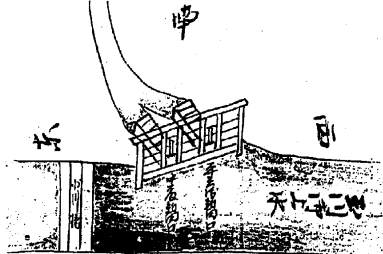
開設当初は小平水衛所と呼ばれていたが、1980年に上流にあった熊川と砂川の2つの水衛所を統合して監視所となった。

監視所から下流の玉川上水へは1965年3月、淀橋浄水場廃止により殆どの流水は止められて、水道原水の導水路としての役目は終えたが、千川上水へ送水するために僅かな量の通水は続けられていた。この送水も1971年に終り原水の流れは完全に止められた。

1986年に、東京都の清流復活事業として昭島市宮沢町

平兵衛新田、中藤新田分水口の図

應永4年(1282)4日



(国分寺市中藤家文庫)

ちょっと寄ってみては...

ふれあい下水道館

今実際に使われて下水が流れる地下25m、直径4.5mの下水管に入ることが出来る。

他に下水道の歴史や役割、仕組みなどを映像やパネル展示でも紹介。また小平市内の用水路などの資料も展示されている。

(入館無料)

平櫛田中彫刻美術館

文化勲章受章者で近代彫刻の巨匠である平櫛田中の終えんの邸宅やアトリエを公開、新たに展示館も開館された。貴重な木彫作

雑木林再現試行ゾーンと野草保護育成ゾーン

上水路は雑木が繁茂し光量不足等から植生の変化が起こっている。自然豊かな雑木林を取り戻すため東京都と地元住民が協議して、木洩れ日量を増やし、遊歩道からも流水が見られるようにと低木常緑樹の伐採や林床箇所の手入れが2004年から行われている。この作業により最近シュラン、キンラン、ヤマユリなど多くの野草が元気を取り戻している。

また、自生野草に恵まれていた玉川上水路の野草保護のため笹類の除去などの自然野草保護作業や観察が月2回継続して行われている。2004年の調査ではこの地域にオカタノオヤワレモコウなど172種類の野草が確認され、四季折々の自生野草を観察できる。なお、これらの作業はいずれも市民ボランティアの手で続けられている。反面、一部心無い